

JAXAの「宇宙太陽光利用システム」構想

【大樹】宇宙航空研究開発機構(JAXA)が大樹町を舞台に開発構想を持つ「宇宙太陽光利用システム」が、十勝圏活性化推進期成会(会長・砂川敏文帯広市長)の国に対する要望事項として初めて挙がり、25日、同構想実現を盛り込んだ要望書が同期成会からJAXAなどに提出された。地球の環境汚染やエネルギー問題の観点から、同構想に寄せる関係者の期待は大きい。期成会の一員として上京した伏見悦夫町長は、今後の展望などを聞いた。(北雅貴)



「各省市が連携して推進を」と話す伏見悦夫町長

伏見大樹町長に聞く

大樹として、この構想はどんな意味を持つのか。この構想は、大樹町にとって、環境破壊は深刻な問題で、温暖化など昔前と比べて明らかに異変を来している。人口6500人の町が、世界のエネルギー問題で少しでも貢献できれば、これほどうれしいことはない。財源の厳しい、資金面での後押しは難しいが、地元としても用地確保などできるだけ支援をした。

「表現に向は、何を望み、どう取り組むか。大樹をはじめ十勝は以前から、広大な平野を生かし、航空宇宙に関して熱心に取り組んできた。今回は管内各自治体の協力を得て一丸となり、要望書提出となった。大樹での実施が決定しているわけではないが、国家プロジェクトとして各省市が連携を取りながら進めてほしい。財源の厳しい、資金面での後押しは難しいが、地元としても用地確保などできるだけ支援をした。」

教育、雇用面で期待 各省市連携して推進を

この町内で研究、開発が進み、実用化に至れば、さらに宇宙のまちのイメージも確立されるだろう。科学者の交流による教育面での効果、長期間の潜在による経済波及効果、雇用促進などの面

限りが、資源の少ない日本にとっては死活問題。太陽からのエネルギーを利用するこのシステムは無尽蔵な天の恵みで、安定した電力供給も見込まれる。環境にも負荷を掛けない。世界的に



宇宙太陽光利用システム 宇宙空間に飛ばした巨大鏡で太陽エネルギーを集め、マイクロ波やレーザービームにして地上へ送り、電力や水素を得る構想。エネルギー安定供給や地球温暖化の回避が狙い。構想では本年度から5年間に計る00億円を掛け、大樹町で技術実証実験などを本格化させる。